

# ひきこもりについて

# ひきこもり支援について

## 現状

- ・国の調査では、ひきこもり状態にある方は、**全国で約100万人**と推計  
人口規模から**本県では約1万人**と見込まれる
  - 内閣府調査
    - ・15歳から39歳 54.1万人（平成27年12月調査）
    - ・40歳から69歳 61.3万人（平成30年12月調査）
- ・県では、平成21年にひきこもり地域支援センター(こころの健康センター)を設置し、本人・家族からの相談に応じるとともに、個別訪問や居場所づくりなど、ひきこもりの段階に応じた切れ目ない支援を実施

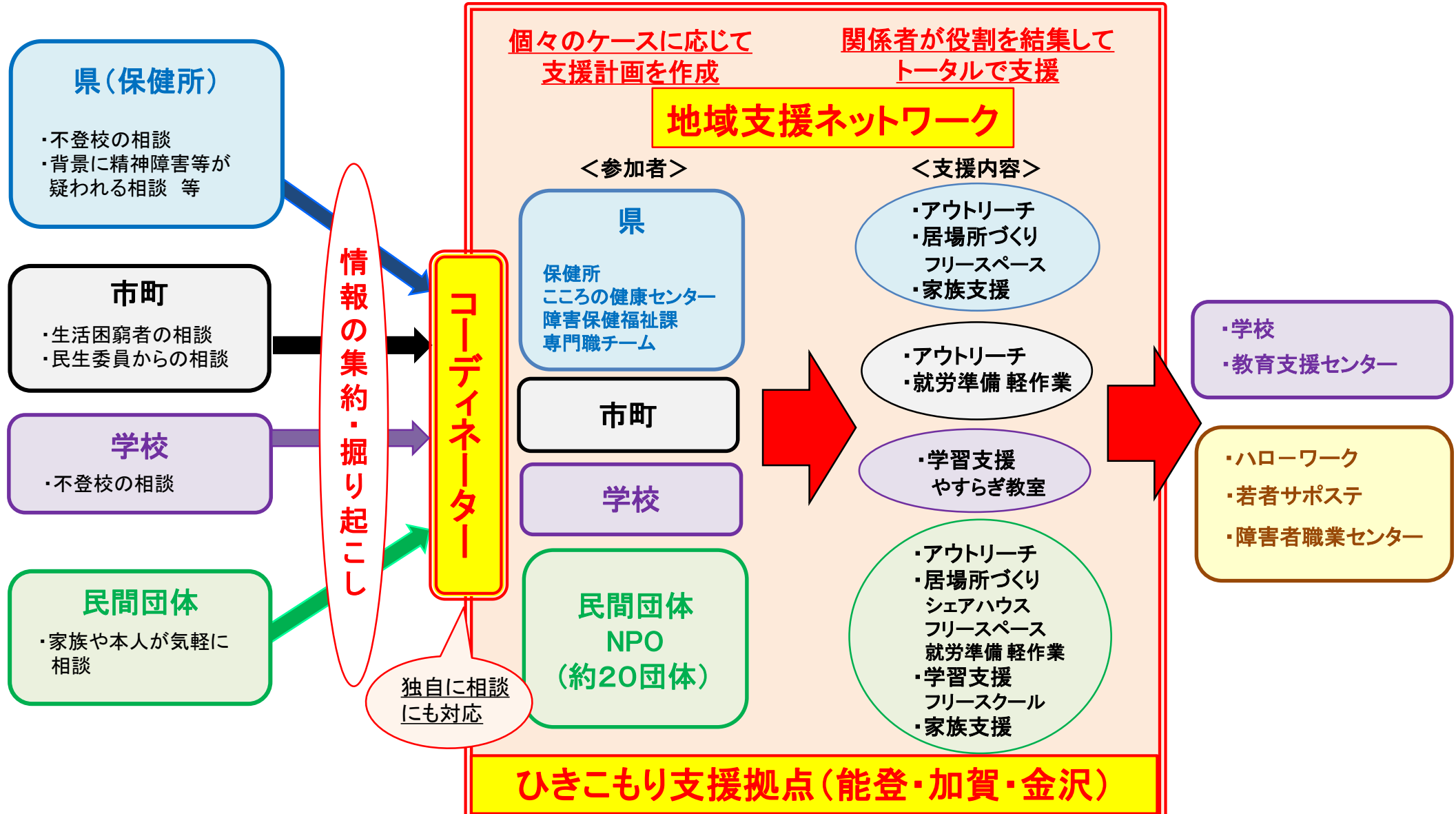
## 新たな取り組み

- ・ひきこもり状態にある方やその家族に対する支援が、県内全域に行き届くよう、  
昨年10月に、従来の金沢に加え、**能登、加賀にも、新たなひきこもり支援拠点を開設**
  - 能登地区：能登ひきこもり地域支援センター（穴水町）
  - 加賀地区：加賀ひきこもり地域支援センター（加賀市）
- ・各支援拠点には、市町や学校、民間団体など、官民の関係者からなる**地域支援ネットワークを構築**

## 今後の方向性

- ・地域支援ネットワークが中心となって、不登校を含むひきこもりの方の情報共有を図るとともに、個別相談や居場所づくりなど、**個々の方の実情に応じたきめ細やかな支援**を実施
- ・ひきこもり状態にある方が、児童・生徒の場合は、**学校や市町教育委員会と連携した支援**を実施

# ひきこもり支援拠点を中心とした相談・支援の流れ



# ひきこもり支援拠点（能登地区・加賀地区）の概要

## ○能登ひきこもり地域支援センター

- ・開設場所 相談支援事業所ピアサポート北のと（穴水町）
- ・運営 医療法人松原会（委託）
- ・相談員 精神保健福祉士等の専門職
- ・開所日時 月～金曜日 9時～17時（祝日、年末年始を除く）



## ○加賀ひきこもり地域支援センター

- ・開設場所 暮らし・しごと応援センターはるかぜ（加賀市）
- ・運営 社会福祉法人長久福祉会（委託）
- ・相談員 精神保健福祉士等の専門職
- ・開所日時 月～金曜日 9時～17時（祝日、年末年始を除く）



## ○業務内容

- ①ひきこもり地域支援ネットワークの構築(学校、市町、民間団体等)
- ②相談窓口の設置、アウトリーチ(訪問)、居場所づくり等の支援

○開設日：令和4年10月3日（月）

# ひきこもり地域支援ネットワークの概要

○各支援拠点において支援ネットワーク会議を開催

- ・構成メンバー：学校、教育委員会、市町、民間団体等
- ・主な役割：不登校を含むひきこもりの方の情報共有、実態把握

個々の方の実情に応じた、個別支援計画の作成

支援機関の役割分担の検討（構成メンバーが連携・協力し、支援を実施）等

→＜活動実績 R4.10～＞

金沢：支援ネットワーク会議：1回、管轄市町の巡回（現状把握・意見交換）

能登：支援ネットワーク会議（2月に開催予定）、管轄市町の巡回（現状把握・意見交換）

加賀：支援ネットワーク会議：1回、管轄市町の巡回（現状把握・意見交換）、民間支援団体との交流会：4回



○相談窓口の明確化

19市町にひきこもり相談担当者を配置し、相談担当者名簿を作成

当事者やご家族等が相談に繋がりがやすい体制を整備

# ひきこもり支援拠点の相談実績(10月～12月)

## ○相談・訪問件数

	R4年10月～12月				R3年10月～12月 金沢
	金 沢	能 登	加 賀	計	
①電話	49	22	61	132	55
②メール	2		3	5	1
③来所	94	8	31	133	117
④訪問	0	37	21	58	0
計	145	67	116	328	173

計183件

倍増

## ○年代別相談実人数

	R4年10月～12月				R3年10月～12月 金沢
	金 沢	能 登	加 賀	計	
10代	11	3	5	19	5
20代	7	6	6	19	22
30代	7	8	5	20	26
40代	3	5	5	13	2
50代以上	5	7	4	16	2
不明	7	0	0	7	4
計	40	29	25	94	61

・新たに設置したひきこもり支援拠点(能登・加賀)の相談件数の計は**183件**

・金沢を含めた3拠点では**328件**と前年同期(173件)から**倍増**

支援拠点のニーズは全県にあり

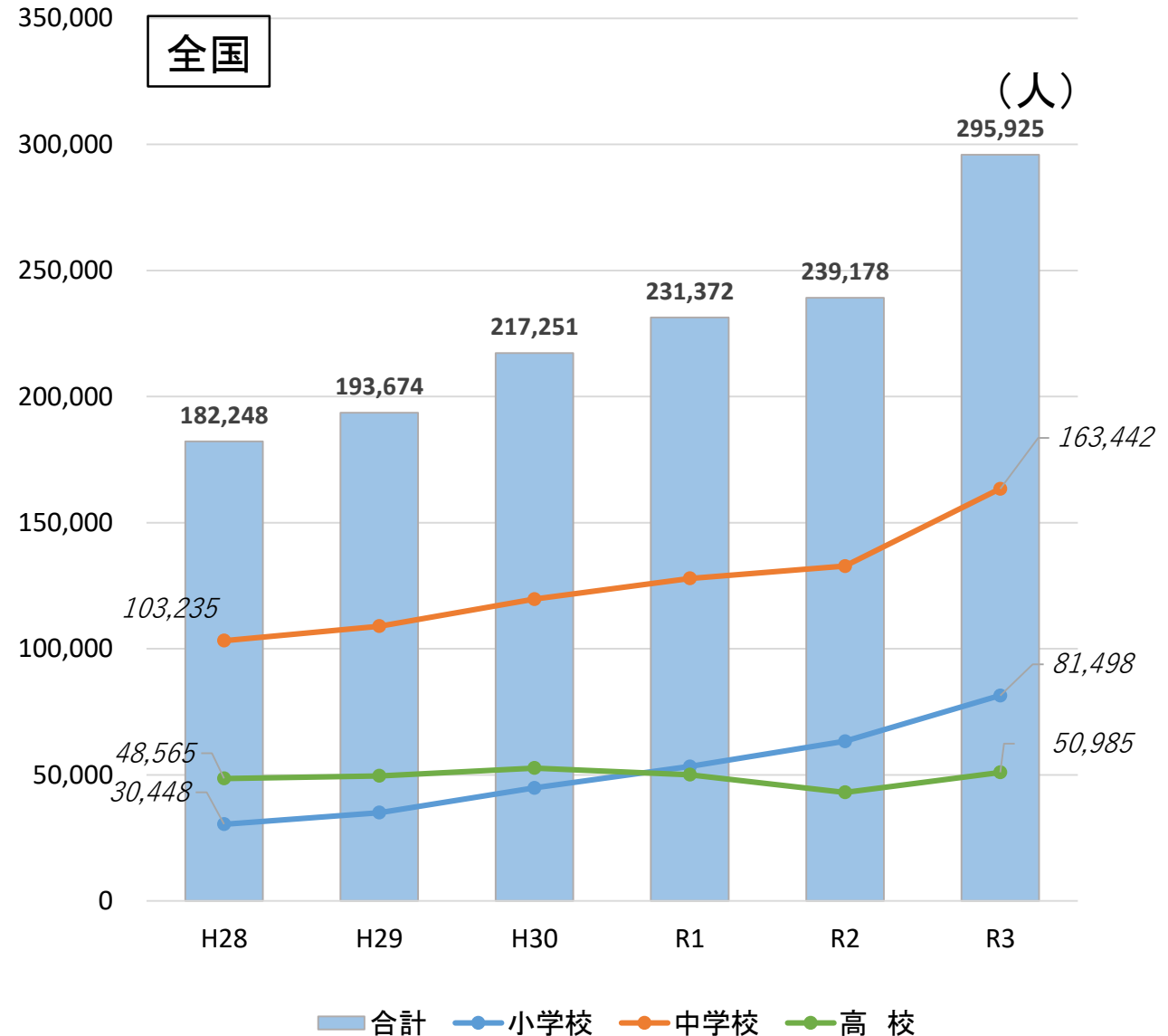
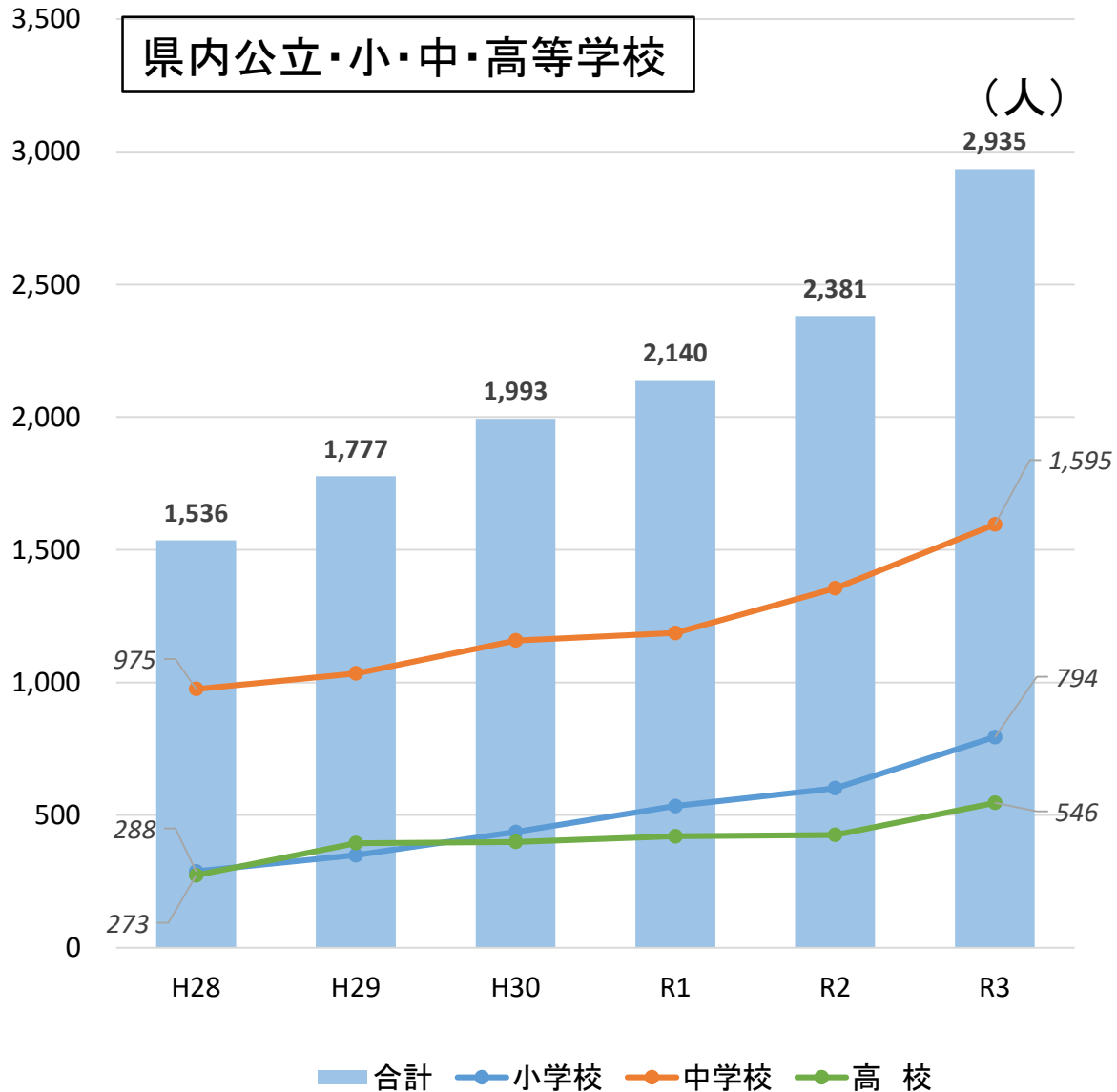
## <現場の声>

- ・相談者 : テレビや新聞等で相談窓口が広く周知されたことで、**相談窓口が明確化され、相談しやすくなった**
- ・市 町 : 新たな支援拠点の設置により、**地域の市町や民間支援団体等との連携がスムーズ**になった
- ・支援拠点: 不登校の中でも、学籍を離れる生徒や精神疾患が疑われる児童生徒等(教育委員会だけでは対応困難)への支援のため、**市町教育委員会との更なる連携が必要**



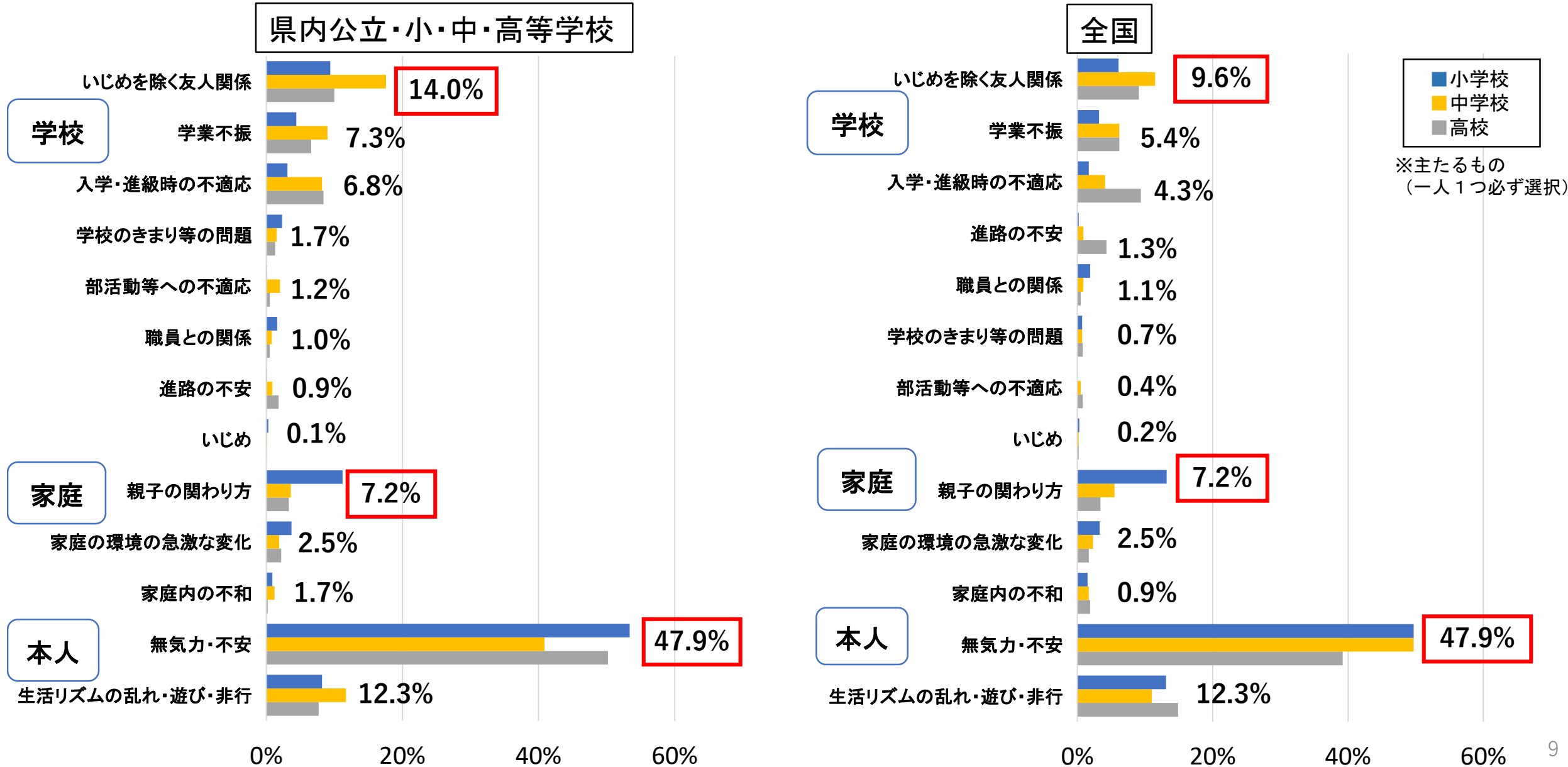
# 不登校の状況について

# 1 不登校児童生徒数





## 2 不登校の要因（R3）



### 3 不登校児童生徒に対する本県の取組 ①

#### (1) 未然防止

○教師と児童生徒との信頼関係及び児童生徒相互のよりよい人間関係づくり

→学級経営の重視（学級は児童生徒にとって学習や学校生活の基盤）

→わかる授業づくり、道徳教育の充実、規範意識の育成、自己有用感の向上等

○児童生徒一人一人の実態把握

→学級担任が中心となり、不登校傾向の児童生徒の早期把握に努め、家庭とも早期に連携しながら対応

#### (2) 不登校児童生徒への対応

○学校の対応

→電話連絡、家庭訪問やプリントの配布、別室登校などにより早期解消に努める

○外部専門家の活用

→スクールカウンセラーの配置や、スクールソーシャルワーカーの派遣を通じ、児童生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細かな相談・支援を実施

〈スクールカウンセラー〉

公認心理師、臨床心理士等

令和4年度より、小・中・高等学校全校に配置

〈スクールソーシャルワーカー〉

社会福祉士、精神保健福祉士等

学校の要請に応じて派遣

### 3 不登校に対する本県の取組 ②

#### ○学校以外の支援機関（教育支援センター）の活用

→学校復帰や社会的自立に向け、学習支援・体験活動を実施し、各種相談に対応

- ・ 県立の教育支援センター（やすらぎ教室7施設）

加賀、小松、金沢、羽咋、七尾、穴水、能登

- ・ 市町立の教育支援センター（10市町11施設）

加賀市、小松市、能美市、白山市、野々市市、金沢市2、内灘町、かほく市、七尾市、輪島市

<教育支援センターの相談実績（件）>

	小松事務所管内	金沢事務所管内	中能登事務所管内	奥能登事務所管内	計
H28	6,006	9,440	927	459	16,832
R3	8,288	10,898	1,075	566	20,827

約1.2倍

### 3 不登校に対する本県の取組 ③

#### (3) 保護者同士の交流・フリースクールとの連携

##### ○不登校児童生徒のいる保護者交流会の開催（小松、金沢、七尾で各1回）

→スクールカウンセラーを交え、保護者同士が日頃の不安や悩みを話し合うことで  
保護者の心理的負担の緩和を図る

<学校に行けない子どもについて考える保護者の会>

開催場所	R3		R4		
	金沢	小松	金沢	小松	七尾
保護者参加人数	10	14	20	18	16
スクールカウンセラー参加人数	5	3	6	6	6

##### ○フリースクールとの連携

→令和元年度以降、不登校児童生徒支援協議会にフリースクールの関係者が参加し、  
互いに情報共有を図る